

ヤマハのミキサー型オーディオインターフェイスMW10をプレゼント!

ギタリストのためのレコーディングマガジン

http://www.sounddesigner.jp

サウンド・デザイナー

5

2006 MAY  
BOUYEN

ギター・インスト・ファン必見!

# 名曲から盗む ギターのうまい目立たせ方

プロのRECテクは宅録でもできる!

## プロのCDに近づく 録り&MIX **秘** マニュアル

パソコンレコーディングをしている人のための

## 小型アナログミキサーの 上手な使い方!

# DAVID GILMOUR

**名盤発掘** 今、明らかになった「ザ・ウォール」制作メンバー証言録

**テク分析** 22年振りのソロアルバム&ピンク・フロイドのミックス技法大公開!

注目アーティスト  
永谷喬夫 (surface)  
會田茂一 (FOE)  
デヴィン・タウンゼント  
小沼ようすけ  
キリング・ジョーク

## PiNK FLOYD Special

**名盤発掘** 今、明らかになった  
ザ・ウォール|制作メンバー証言録

**テク分析** 22年振りのソロアルバムと  
ピンク・フロイドのミックス技法大公開!

3月24日に22年振りに発表されたデヴィッド・ギルモアのソロアルバムが大きな話題を呼んでいる。ギルモアといえば、言わずと知れたピンク・フロイドのギタリストだが、今月はその彼にスポットライトを当てて、あの独特なスペース・ロックサウンドの秘密に迫ってみた。まずは、ピンク・フロイドの名作である「ザ・ウォール」の制作秘話をメンバー自らが語る、貴重な証言録からお届けしよう。

interviewed by Sylvie Simmons / Mojo / Rock Backpages / Origin / Focus photo by Harry Benson

# DAVID GILMOUR

# DAVID GILMOUR

ピンク・フロイド  
「ザ・ウォール」証言集



「そんな曲であるか」とも聞いていた。私も「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。彼は「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。彼は「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。

エスリー・ロジャリーのスタジオまで、彼は90分にも及ぶデモを聴かせてくれた。イギリスの気候や室温の条件がピッタリだったせいもあるのか、すぐに楽曲の世界に引きこもり込まれた。デモは完成形とはほど遠かったけれど、極めて重要な作品となることは明白だった。ウォーターズ・長く複雑な作業になることは見ていたので、相談相手となるコラボレーターが必要だったんだ。でも、バンドにはその存在がなかった。ギルモアは無関心だし、ライオンはまったく使えないヤツだった。メイソンとは話し合ったけど、当時の彼はリリースカーに夢中だった。そこで音楽的、知的に近い感性を持ったエズリンに声をかけたんだ。ギルモア・ロジャリーのスタジオでミーティングをした時、ロジャリーは自分のホームスタジオで録音した2つのアイデアを提示して、どちらかをバンドの作品として形にしたいと言ったんだ。一つは「ザ・ウォール」、もう一つは後に彼の初のソロアルバムになったものだった。その後、ミーティングで「ザ・ウォール」でいいからと決定したんだ。

「こんな曲であるか」とも聞いていた。私も「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。彼は「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。

「こんな曲であるか」とも聞いていた。私も「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。彼は「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。

「こんな曲であるか」とも聞いていた。私も「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。彼は「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。

「制作過程」  
ボブ・エズリンは始めに、丸々一晩をかけて、ロジャリー・ウォーターズのテープを解凍していった……

エズリン・まず、紫吹の「ザ・ウォール」の映画の脚本を書くことから始めたんだ。これは後に映画化された「ザ・ウォール」とは無関係だ。私はひとつの固定した描写で表現するには反対だった。ロジャリーのテープには、物語を伝える力を持つ音楽風景が強く感じられたんだ。耳で聴くというよりは、情景が目に浮かぶといった感じだね。それをベースにサウンドエフェクトやクロスフェードを用いて、ひとつに統合したストーリーに組み立てていった。そして、その翌日に音の音本を完成させたんだ。

ウォーターズ・ペーシクな形は変わってはいないよ。「ドント・リーヴ・ミー・ナウ」、「イズ・セア・エニバディ・アウト・ゼア」、「マザー」は、デモに何が変わってない。「ギルモア」誰かが「この曲は良くない」と言うところ、ロジャリーは不満に家に帰り、翌日それを素晴らしい形に変えて持ってくるんだ。こうした相乗効果がいよいよを生んでいた。彼は怒り気味の方がいいものを生むんだ。ウォーターズ・彼らは「グループを生きたコラボレーション」と言うけど、我々は「コラボレーター」と呼べる関係ではなかった。民主的な制作プロセスだったとは、間違っても言えないね。誰かがいいアイデアを持っていて、それを採用するのはあつたけど、それは映画の脚本家や監督が役者の意見を取り入れる程度のことだよ。解放以降、彼らは「全員で作った」と主張しているけど、それは大ウソだ。「ザ・ウォール」以降の彼らの作品を聴けば、それは誰にだって明白だろう。彼ら自身ではなく、誰かにやらせているという事実を目にすればね。

ギルモアはギターを弾いたし、いくつかの曲は書いたけど、他の部分におけるインプロの共同プロデュースなんだ。彼の創造力はとても豊かで、そのインプロは大きかった。確かに、ギルモアもプロデュースとしてクレジットされている。まったく違う役割を兼たしてはいないけど、基本的には彼と私がクレジットされているみたいだね。しかし、本当の百兵長は一人しかいなかった。それは私だ！

ギルモア・ロジャリーがメインのプロデュースであったことは間違いない。もともと彼のアイデアを具現化したものだったわけだし、彼はプロダクションに関連する様々なことに長けている。バンドのメンバーや周辺の人間に対して、自分の主張をかなり強い調子で押し通していたよ。エズリンは、ロジャリーと私の機嫌直し役という感じだった。

メイソン・作業を円滑に進めるため、我々はさらに外部の人間の必要性を感じていた。そこで、ボブ・エズリンをサポーターするために、新進気鋭のエンジニア、ジエムズ・ガスリーを起用することにしたんだ。

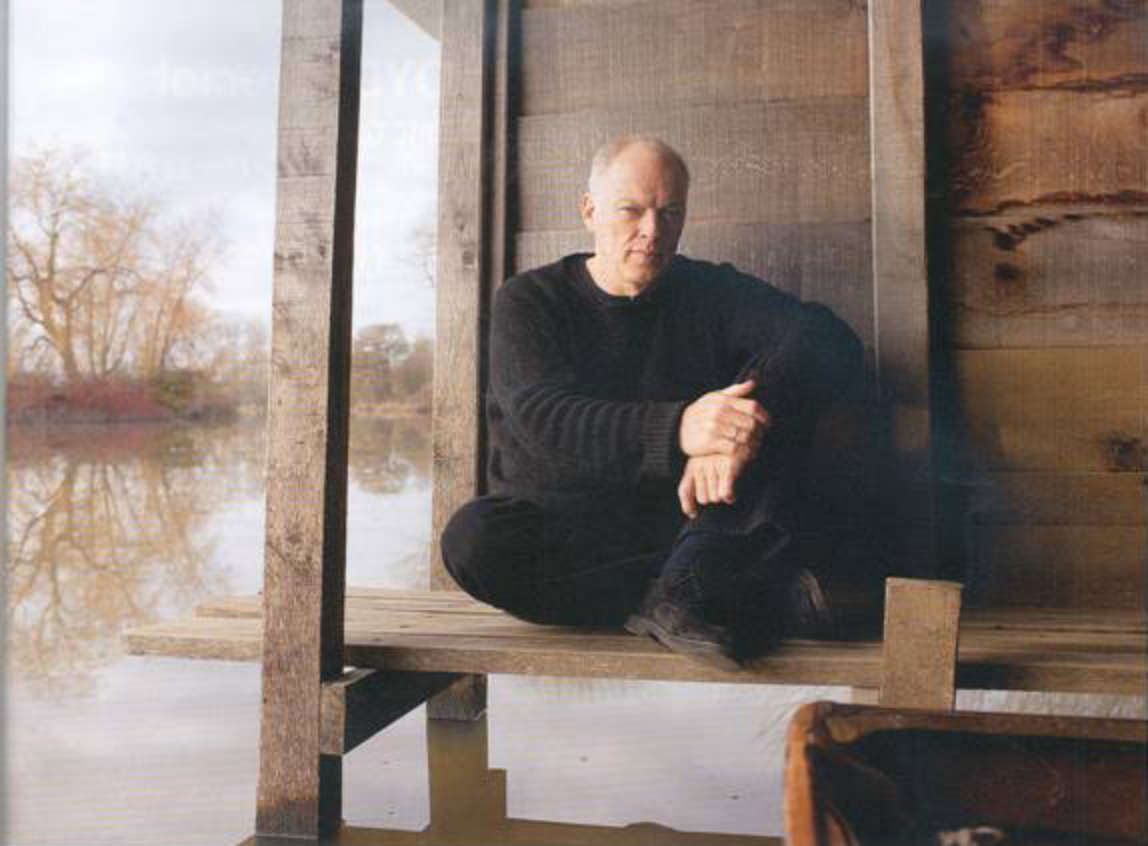
ジエムズ・ガスリー・突

●「ザ・ウォール」制作のイロハを解説しているスクリプトをロジャリーが読んでくれた。彼は「それはいいけど、デヴィッドはそれ以外の曲でいいから」とも言っていた。



「ウォーターズ・当初はこのレコードの主旨は誰なのかって」ということで、大きな混乱があった。ロジャリーは、彼主導のプロジェクトだと捉えていたけど、一人が突出することは全体の相手を乱すことになる。ロジャリーはその点に気づいて神経質になっていった。そういつともあって、私に声がかかったんだ。ライオン「狂気」や「灰」の頃も同じように、一体感があつたんだ。だから、外部プロデュースを入れることにしよう。1人の集合的なパワーが失われるのって、「1人の集合的なパワー」が失われるのって、「1人の集合的なパワー」が失われるのって、「1人の集合的なパワー」が失われるのって……

ウォーターズ・「狂気」までは全員一丸となっていたけど、その後は違う。怒りや羨望が溢れだして、かろうじて我々をつなぎとめていたんだ。ギルモア・「ザ・ウォール」の作業工程は3つに分けられる。最初はロンドンのブリクナム・ア・ロウだった。そこでアイデアをまとめて、最終のデモを作ったんだ。その後、フランク・アルパムの大手で完成させた。そして、最後にロサンゼルスでミックス。我々がフランスで使っていたスーパーベア・スタジオは高地にあつたので、歌入れをするには難しく、



## 名盤『ザ・ウォール』完成までの道程を メンバーが赤裸々に語るドキュメンタリー

THE FOUNDATIONS

【基礎固め】

1977年7月6日。モントリオールのオリエンティックスタジアムにおける、ピンク・フロイドの「アニマルズ・イン・ザ・フレーション・ツアー」の最終日公演。ロジャー・ウォーターズは、観客の一人に唾を吐きかけた……。

デヴィッド・ギルモア…あの日は、ショーをあまり楽しんでいなかったことを覚えているよ。会場の巨大なスタジアムは建設されたばかりで、まだクレーンが会場内にあった。私はまったく集中できず、アンコールではミキシングコントロールに座って演奏したんだ。まあ、それがロジャーの気になったとは思えないけどね。たぶん彼は目撃証言に聞かされて、翌日を外さずにはいらなかつたんだらう。それで、あんな盛装に出でしまったのさ。

ニック・メインソン…もともとロジャーは、「愛と平和」みたいなタイプの人物じゃないから……。ただ、全員ロジャーに反感を感じる部分があった。確かにあの日のスタジアムでの公演は奇妙な雰囲気だったからね。スティーヴから唯一我々が見える側の方のエリアでは、無理やり最前列に割り込んで来るヤツとか、エアギターに興じているヤツ、歌詞を全部暗記しているほど熱狂的なファンなのに、前日から開演を待ち続けていたため、バンドの登場と共に気を失ってしまうヤツ……。

ギルモア…ロジャーはツアー中ずっとイライラしていたよ。このビジネスにムカついていたらさ、転機となったのは、『狂気』の世界的成功だね。それまでは1万人クラスの大きな会場でも、曲の静かな場面では計一本が希薄でも聴こえるくらいの静寂だったのに、『狂気』以後の客は騒ぎにまがらっているよ。

うだった。この変化は衝撃的だったよ。

ロジャー・ウォーターズ…だんだんすべてが無意味に思えてきて、目的が「金とエゴ」にしか見出せなくなっていたんだ。

ボブ・エズリン…ロジャーとは、当時の彼の夫人キャロリンを通じて知り合ったんだ。「アニマルズ」のツアーで、彼が私が住んでいたトロントに来た時のことだ。会場に向かうリムジンの中でロジャーは、「観客との間に距離感を感じる」と言っていた。それこそ「壁を作りたい」と言っていた。だから、私は皮肉っぽく「本音で作ってしまったら」と言ったんだ。その数日後、ロジャーの家には呼ばれて「ザ・ウォール」というプロジェクトに加わってほしい」と依頼されたんだ。

THE MASTER BUILDER

【ザ・ウォール』のコンセプト

「アニマルズ」ツアー終了に伴い、メンバーは別々の活動にいそいそした。ギルモアとリック・ライトはソウルバムを制作し、ロジャーは郊外の家で作曲を開始した。

ウォーターズ…当初からあったイメージは、ステージを横切るように建てられた壁を抜く。観客とバンドのサドマンの同体性だ。それは、観客に苦痛を与えるほど、ひいては木造敷版になってしまふほどの大音響にも関わらず、オーディエンスがバンドを聴き出すというものだ。我々はP.Aシステムの音響を最大限まで上げるので、バンドの演奏を聴きたい観客は、それによるダメージに堪えなければならぬ……。ソツとするような関係性だよ。主人公のピンクがオチスの民牛飼家へと愛を逃げるアイディアは、それが原点となっているんだ。「狂気」というテーマは、シド・バレットとともに関係あるけど、自らの



## プロエンジニアの上村量氏が徹底分析! 最新ソロアルバム『オン・アン・アイランド』と『ザ・ウォール』の MIX技法を検証する!



「ザ・ウォール」の貴重な証言録に続いては、ギルモアの最新ソロアルバム『オン・アン・アイランド』と名作『ザ・ウォール』という2枚のアルバムのサウンドの魅力に徹底的に迫ってみよう。まずは、ギルモアのソロを題材に、あの柔らかい独特なサウンド作りの秘密から検証してみた。分析:上村 量 文:森脇 邦



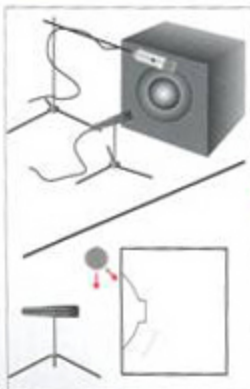
◆ギルモア独特の温かいアナログ感に満ちた音を再現するにはテープ高のプラグインが有効だ。写真はLogicのTape Delay



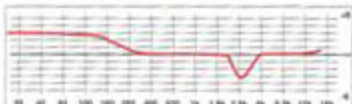
◆柔らかさがうまく出せない場合は、ディエッサーでワウとした感じを演出しよう。写真はLogicのDeEsser



それ以外では、ピンチエッジ機構やシミュレートしたソフトな過渡音と、ギルモアに近いニアランスを得る方法もあります。ただし、中には差込みを加えることでピンチエッジ感を作り出しているものもあるのですね。そのようなモデルだと、逆はなかなか再現が難しくなってしまう場合があります。そんな時にはディエッサーを使うとよいでしょう。さらに、ディエッサーをかけることでワウとした感じが作れます。もし、音の芯がなくなってしまうようなら、薄く原音を流していくと、ギターなどの存在感が取り戻せます。



◆このようにスピーカーの上側にコンデンサーマイクを立て、その音をミックスすることでギターに柔らかさを加えられる。ダイアフラムの角度を色々変えて、最適な位置を見つけよう



◆ミックス時にEQを使って、ピッキングの瞬間だけ2-3kHz付近をカットするとアタック成分が減らせる



◆にこりにない滑らかなサスティーンもギルモアのサウンドには欠かせない要素だが、うまく音が伸びない場合はハードのコンプを使ってみよう。写真はMXRのDynaComp

また、ギターアンプにマイクを向けると、通常のオンマイクに加えて、わざとスピーカーの正面を外して、エッジを狙ったマイクの音をミックスしても面白いでしょうね。エッジを狙ったマイクで低音を補強して、さらにオンマイクとの位相差によって高域をうまく落とせば、音の芯を残しつつ、若干ソフトなソフトなアタックの音になります。ただ、オフマイクだと音感が薄くなってしまうですが、スピーカーを外すことで(音は近いままに、柔らかい音)になるんですね。あと、ギルモアのようなロングサスティーンがうまく伸びない人は、コンバクトのコンプを使ってみるのも手でしょうね。

ギルモアのサウンドを再現する際には、上品で柔らかい音作りがキーポイント！

アタック感がないのに芯はある、ギルモア独自のギターサウンドに近づける方法

# 1 MIX&エフェクトテク徹底解剖 「オン・アン・アイランド」編



ボーカルとコーラスは、前後感よりも  
周波数レンジの上下感によって差別化が図られている



●「オン・アン・アイランド」は、まさに曲調のおおらかな中にも、全体を包むギルモアのボーカルがセンターにいながらも、ダブルカトリブルに重ねることで広がりを感ずり出しているのが印象的です。それと、声のトーンが一定であるという点も特徴です。このような響きを作るには、まずメインボーカルにレシオを低くしたコンプを薄めにかけて、太い声に仕上げるといいでしょう。ダブルの方は、EQで高域を持ち上げてからコンプを強めにかけること、息の成分が強調できて、まるでずっと歌が続いているかのような響きを作れるんです。

あと、低音の響きが良いギルモアのボーカルに対して、ゲストのデヴィッド・クラウズビーンによるコーラスは、重ねれば重ねるほど高域がきれいに響くタイプなんです。ボーカルとコーラスは前後感よりも、周波数レンジの上と下によって差別化を図られています。もちろん人声だけでなく、例えばメインボーカルにはリボンマイク、コーラスには高域特性の良いコンデンサマイクというように、録音時にさまざまな工夫がなされていると推測されます。なほ、ギルモアのソロギターには4分のディレイがかけてはいますが、ここでのポイントはその音色とパンニングです。ソロは、混音によって「右

●「目玉に収録されているアルバムタイトル曲ですが、全体を包むギルモアのボーカルがセンターにいながらも、ダブルカトリブルに重ねることで広がりを感ずり出しているのが印象的です。それと、声のトーンが一定であるという点も特徴です。このような響きを作るには、まずメインボーカルにレシオを低くしたコンプを薄めにかけて、太い声に仕上げるといいでしょう。ダブルの方は、EQで高域を持ち上げてからコンプを強めにかけること、息の成分が強調できて、まるでずっと歌が続いているかのような響きを作れるんです。」

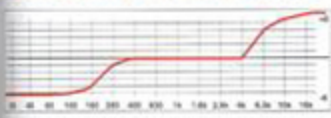
あと、低音の響きが良いギルモアのボーカルに対して、ゲストのデヴィッド・クラウズビーンによるコーラスは、重ねれば重ねるほど高域がきれいに響くタイプなんです。ボーカルとコーラスは前後感よりも、周波数レンジの上と下によって差別化を図られています。もちろん人声だけでなく、例えばメインボーカルにはリボンマイク、コーラスには高域特性の良いコンデンサマイクというように、録音時にさまざまな工夫がなされていると推測されます。なほ、ギルモアのソロギターには4分のディレイがかけてはいますが、ここでのポイントはその音色とパンニングです。ソロは、混音によって「右

## ●ソロのギターにかけているディレイ設定

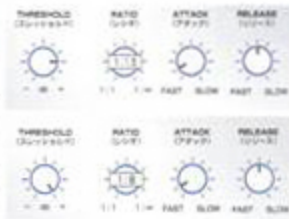


●「目玉に収録されているアルバムタイトル曲ですが、全体を包むギルモアのボーカルがセンターにいながらも、ダブルカトリブルに重ねることで広がりを感ずり出しているのが印象的です。それと、声のトーンが一定であるという点も特徴です。このような響きを作るには、まずメインボーカルにレシオを低くしたコンプを薄めにかけて、太い声に仕上げるといいでしょう。ダブルの方は、EQで高域を持ち上げてからコンプを強めにかけること、息の成分が強調できて、まるでずっと歌が続いているかのような響きを作れるんです。」

## ●ダブルのボーカルそれぞれのコンプ設定



●右の図は、上がメインボーカル、下がダブルのボーカルにかかっているコンプを再現する設定例。メインは強めに、ダブルは強めにかけている。さらに、ダブルはEQでローカット&ハイブーストして、メインとの違いを明確にしよう



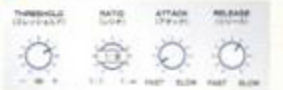
●「目玉に収録されているアルバムタイトル曲ですが、全体を包むギルモアのボーカルがセンターにいながらも、ダブルカトリブルに重ねることで広がりを感ずり出しているのが印象的です。それと、声のトーンが一定であるという点も特徴です。このような響きを作るには、まずメインボーカルにレシオを低くしたコンプを薄めにかけて、太い声に仕上げるといいでしょう。ダブルの方は、EQで高域を持ち上げてからコンプを強めにかけること、息の成分が強調できて、まるでずっと歌が続いているかのような響きを作れるんです。」



## ●ディレイ



## ●コンプ



## ●リバース



●こちらは「ザ・ウォール」に収録されている「コンフォタブル・ナム」のソロのロングトーンの手書きを再現する設定例だ。ディレイ成分はリバースをかけても繰り返し感が減らない場合は、EQなどで高域をカットしてあげよう。コンプはリリースを基にするのがコツだ

ギルモアのギターエフェクト術 ①  
伸びやかでスベーシーな  
ロングトーンの演出法  
ギターで音を伸ばす場合、普通はピッチを下げますが、ギルモアの場合は「ラト」をしている感じがいない人々です。しかも、音の入りかたはいいんですが、この状態でロングトーンを伸ばすのは、とても難しいと思います。まあ、ギルモアだからこそできるのかもしれない。まず、リリースを基にするのがコツだ。ディレイ成分はリバースをかけてもいいでしょう。その際、ディレイ成分を減らすのではなく、むしろディレイ成分を増やして、繰り返しの繰り返しがなくなると、滑らかな感じになります。さらにコンプを強めにかけて、リリースタイムを長くすれば、より滑らかなロングトーンに仕上げられると思います。

## 2 MIX&エフェクトテク徹底解剖 「アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール(パートII)」編

リバーブ音とドライ音をハッキリさせて、  
それらを対比することで、各メンバーの存在を浮き出す

PINK FLOYD  
THE WALL



★キレのいいクリンなカッティングギターを左右に配置し、サウンド系のソロギターをセンターに配置。また、メロディボーカルとエコーで構成しているアコースティックギターをやや左に配置してアクセントとしても、聴者に響く手前のコーラスが効果的。

★この曲のボーカルにかかっている古いタイプのリバーブを再現するには、リバーブタイプはプレートを選ぶのがポイントだ。プリディレイタイムは30ms、リバーブタイムは22msに設定してみよう

### ■ボーカルにかかっているリバーブ設定



### ■カッティングギターのコンプ&EQ処理例



★左右で鳴っているカッティングギターのツブが削った小気味い感じを再現するには、コンプをキツくかけるという、レシオは1:20に、アタックとリリースは最速にセットするのがポイントだ

★カッティングをよりシャキシャキさせたい場合は、コンプの前にEQをつないで1.5kHz付近をややブーストして、300Hz以下は思い切ってカットするとい



★テープコンプレッションを再現できるプラグインを導入し、ピンク・フロイドのような70年代特有のビンテージっぽい立ち回りのサウンドを得ることができる。写真はPSP Vintage Warmer

レコーディングにおける重要な要素であるリバーブですが、「オン・アン・アイランド」ではリバーブが中長域を占めているのに対し、このピンク・フロイドの「アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール(パートII)」では高域で広がっていますね。これは、70年代サウンドの特徴付けられるプレートリバーブ独特の質感で、制音のような、あからさまな残響感を作り出しています。

若いこれはアタック感を作り出したのかもしれないね。これは、PSP Vintage Warmerのこのプラグインを使えば十分に再現できる質感です。

全体的に曲調は決まっていますが、途中でロジック・ウオーターズのボーカルを手前のコーラスの音程が急に大きくなったといった仕掛けがあつて、ダイナミックレンジの広さや、音程の歪みギターが先曲のメリハリ感を出しています。

### Ryo Uemura's Profile

シンクシンクワイングラルの音楽エンジニア。ギターやボーカルなどのマイクレコーディングはじめ、Pro Tools HDや各種DAWソフト、プラグインなど、コンピュータからハード機器の操作まで、実に幅広く精通している。現在までにもトモコンボや残像カフェ、神森歌也、尾野カオルなど、ジャンルを問わず多彩なアーティストの作品を手掛けている。



ギルモアのギターエコーエフェクト  
「ディレイタイムを巧みに操るトリッキーなワザ」

ディレイタイムという、リバーブの効果が有名ですが、ギルモアを単くから取り入れています。空想「アナザー・ブリック・イン・ザ・ウォール(パートII)」の例ですが、まず遅延を先に設定させ、ショートディレイをさらに挿入してディレイ成分を作っています。さらに、そのディレイ成分に付随するディレイをかけることで、非常にトリッキーでユニークなフレーズを作り出しています。

このように、単独の遅延に付随するディレイをかけるのではなく、ショートディレイ成分にディレイを重畳することで、不思議な音の空間を作り出しているんです。このようなディレイは「ディレイ」としてではなく、「遅った後からディレイ」として一体化しては難しいんですよ。再入力にディレイ成分を要する強いエフェクトユニットです。

★ショートディレイ(上)に、さらに遅延2分のディレイ(下)をかける。ただし、コードが変わると音が濁ってしまうため、「アナザー・ブリック」のようなワンコードの曲で有効な手法といえる

## デヴィッド・ギルモアのスピーシーな ギターサウンドを完全シミュレート!

特集の最後にお届けするのは、本誌恒例のギターサウンド・シミュレーションだ。ここではデヴィッド・ギルモアの唯一無二のトーンを4台の人気シミュレーターで再現してみた。曲はピンク・フロイドの代表曲「マネー」と「イン・ザ・フレッシュ」だ。さあ、早速ギルモアになりきってみよう! 解説: 日真真二

### ズーム G2.1u

¥18,900(税込)  
問: 株式会社  
TEL: 03-5835-3200



### Money (ソロ)

アンプは「MS DRIVE」をチョイスして、ゲインよりレベルで歪みを作り出すようにするとニュアンスが伝わりやすい。キャビネットは12インチの4発入りで、鋭角的なサウンド設定になっているが、最終的にディレイを音まろやかにするのを前提でこのパラメーター値にしてみた。ディレイに関しては、タイムを30、フィードバックを24、バランを12にセッティングすれば、この曲のソロの雰囲気と非常に近くなるだろう。

Drive		MS DRIVE	
Cabinet		4X12	
Gain	Tone	Level	Bass
65	8	90	3
Middle	Treble	Mic Type	Wt Position
2	3	dy	2

### In the Fresh? (単音リフ)

アンプは「MS DRIVE」で、キャビネットは「4X12」を選択。ゲイン、トーン、レベルはやや強とし気味で、程々の歪みになるような設定にするのがポイントだ。しかし、使用するギターによっては歪みが足りなかったり、あるいは音がこもってしまうかもしれない。その場合は、ミドルを少し上げよう。マイクはダイナミックを選び、ポジションはスピーカーに最適なセッティング(10)にしてアタック感を出そう。

Drive		MS DRIVE	
Cabinet		4X12	
Gain	Tone	Level	Bass
60	5	80	4
Middle	Treble	Mic Type	Wt Position
4	2	dy	0

### ネイト・マースのマルチアンプ GUITAR RIG 2

オープンブライズ  
(市場予想価格: ¥79,500前後)  
問: 株式会社  
TEL: 03-5335-5861



### Money (ソロ)

伸びのあるトーンが欲しいから、ここではフェンダー-BASSMAN系のアンプをチョイスし、前段に「GAIN BOOSTER」を挿入してゲインを稼いでみた。ベースが高めのが、キャビを1発にして弾けるようなサウンドを目指した結果、そういふ感じになった。マイクは「Dynamic 57」をややオフ気味である「OFF AXIS」にするのがポイント。ダブルトラックの感じを出すなら、「QUAD DELAY」を短めのタイムでかけるといい。

Amp Type		TWEED MAN	
Cabinet Model		1X12 TWEED ALNICO	
Vol. Bright	Vol. Normal	Bass	Mid
4	6	7	5
Treble	Presence		
4	1		

### In the Fresh? (単音リフ)

アンプはフェンダー系の「TWEED MAN」でキャビは「4X12」だが、前段にディストーションの「CAT」を軽くかけるのがミソ。重くない過度な歪み感を作るように心掛ける。さらには、ベースとミドルを強調することで、この曲の音の厚みを出してみた。マイクは「Dynamic 421」をチョイスし、オンマイクである「ON AXIS」にしよう。もし歪みがキツくなってしまうら、「DISTANCE」を多めに取るといい。

Amp Type		TWEED MAN	
Cabinet Model		4X12 TWEED ALNICO	
Vol. Bright	Vol. Normal	Bass	Mid
4	8	9	9
Treble	Presence		
5.5	0		

### シミュレーションしたナンバー



#### Money

「マネー」  
●収録アルバム  
「狂気」  
東芝EMI TOCP-15001  
73年発売



#### In the Fresh?

「イン・ザ・フレッシュ?」  
●収録アルバム  
「デ・ウォール」  
東芝EMI TOCP-65362  
79年発売

### ライン6 POD XT

¥58,800(税込)  
問: 株式会社 KID お客様相談窓口  
TEL: 03-3799-9086



### Money (ソロ)

アンプはギルモア愛用のハイワットタイプを選び、キャビネットは「4X12」で、かなりのハイゲインの設定にしている。艶やかな音を出すために、トレブルとプレゼンスを上げ気味にしてあるが、この設定を固定したままベースを調整して全体のトーンを決めるといいだろう。ソロのダブルトラック効果はリバーブで出しているが、ショートディレイを強くかけてお忘れれば同じようなサウンドになるはずだ。

Amp Model		HWAY 100	
Cabinet Model		4X12 GREEN 20'S	
Output	Drive	Bass	Middle
8	10	4	5
Treble	Presence	Chan Vol	Reverb
8	4	8	4

### In the Fresh? (単音リフ)

この曲の単音リフの音色の厚みは、ベースではなく、ミドルで作りたいようにすると近いニュアンスが出る。ドライブは9と高めだが、このヘッドとキャビネットタイプでは、このくらい設定がちょうど気持ちいいが、かつヘッドになり過ぎないサウンドになるはずだ。リバーブは2と抑え気味だが、ROOMを30%にして部屋鳴りを際出したい。マイクを「SF OFF AXIS」に設定することで低音感が生きるといい。

Amp Model		HWAY 100	
Cabinet Model		4X12 GREEN 20'S	
Output	Drive	Bass	Middle
7	9	3	7
Treble	Presence	Chan Vol	Reverb
8	2	8	2

### ボス GT-8

オープンブライズ  
(市場予想価格: ¥47,000前後)  
問: ローランド株式会社相談センター  
TEL: 050-5191-2555



### Money (ソロ)

アンプはRectifierタイプでキャビは「4X12」を選択。このままでも十分な歪みが見られるので、ゲインは他の3機種に比べてかなり低めになっている。このセッティングの肝はトレブルとプレゼンスで、カラッとした中にも粘りが出るといふサウンドを目指そう。また、ディレイで右に伸ばしてもいいが、プレートリバーブをチョイスして、後を40前後に設定しても同じようなダブルトラック効果が得られるはずだ。

Preamp Type		R-FIER	
Speaker Type		4X12	
Gain	Bass	Middle	Treble
3.5	4	3	7
Presence	Level		
2	6		

### In the Fresh? (単音リフ)

同じくハイゲインの「R-FIER」をセレクトしてゲインを強く設定することにより、低音域のクリアさと粘りの両方の要素を作ってみた。なお、平たい感じを出すため、キャビネットは「2X12」にしている。高域はトレブルで作り、逆にプレゼンスは下げ目にするといふ。リバーブはミックスをかけてもいいが、ルーム系のリバーブをチョイスしてやや遅め(40~45くらい)の設定にしても同じような鳴りになるはずだ。

Preamp Type		R-FIER	
Speaker Type		2X12	
Gain	Bass	Middle	Treble
2.5	6	6	8
Presence	Level		
1	6		